

Architecture in Time

時間のなかの建築

西洋建築史系スタジオ課題

建築理論を考えると、われわれはモダニズムをスタートラインとして考えがちである。

しかし20世紀は、長い歴史のなかで考えると、きわめて例外的な建築観が優勢となった時代だったと言える。モダニズムはその特異な建築観の出発点に過ぎず、いまわれわれはその価値観を持続することが不可能な時代を迎えつつある。

20世紀の後半には「装飾」や「地域性」など、モダニズムが設定した問題意識についての揺れ戻しが見られた。しかしモダニズムによって設定された枠組のなかで建築を論じる限り、モダニズムの檻から逃れることなどできようはずもない。

「西洋建築史系スタジオ」では、モダニズム以前まで視野を広げたときに見えてくる建築のあり方、「時間のなかの建築」がどのようなものだったのかを詳細にリサーチすることで、21世紀の建築のあるべき姿を模索したい。

数百年あるいは千年以上生きながらえてきた建築は、その長い時間のなかで「リノベーション」の一言では言い表すことのできない様々な手法によって、変化しながら生きてきた。その変化の過程、変化の手法を3次元的にリサーチし、その成果を現代日本に当てはめてみよう。なお、本スタジオは日本建築学会設計コンペとも連動しており、最終成果物はコンペにも応募することとする。

<https://www.aji.or.jp/jpn/symposium/2015/compe.pdf>

スタジオの進め方：

①西洋建築史リサーチ

前近代の西洋の建築を対象に時間変化をリサーチする。図面分析をもとに、3Dモデリングや模型を用いて、時間のなかの建築の変化を解析する。

②近代建築リサーチ

近代建築を対象に、①のリサーチを踏まえた時間変化のリサーチ、また実際にはなかったけれどもあったかもしれない変化の提案などを3Dベースでビジュアルに表現する。

③中間講評 (5/26)

④現代の日本から対象計画地を選定し、この50年間に実際に起こった開発とは異なるオルタナティブを、①と②で得られた知見を応用し設計する
(=最終成果物)

⑤スタジオ課題、最終提出 (6/23)

⑥日本建築学会設計コンペ提出

「もう一つのまち・もう一つの建築」 (6/26)

初回ガイダンス：

4月14日(火) 14:00から加藤研にて

エスキス：

毎週木曜日13:00から加藤研(306)にて

履修条件：

学部生のみ

指導メンバー：

加藤耕一＋小見山陽介(TA)

参考文献

- 加藤研究室編『時間のなかの建築』2014年 → 加藤研HP(下記URL)よりダウンロード可
http://www.history.arch.t.u-tokyo.ac.jp/kato/Welcome_files/proceedings_architectureintime.pdf
- 黒田泰介『ルッカ1838年』アセテート、2006年；『イタリア・ルネサンス都市逍遙—フィレンツェ:都市・住宅・再生ヨーロッパ建築ガイド』鹿島出版会、2013年
- M.ムスタファヴィ、D.レザボロー『時間のなかの建築』黒石いずみ訳、鹿島出版会、1999年
- ディテール8月号別冊『近代建築を使い続けるためのデザイン 東京駅丸の内駅舎 保存・復原の記録』2014年
- 後藤治『都市の記憶を失う前に 建築保存待ったなし!』白揚社新書、2008年
- 松村秀一『建築——新しい仕事のかたち：箱の産業から場の産業へ』彰国社、2013年
- 小林克弘他『世界のコンバージョン建築』鹿島出版会、2008年；『世界のコンバージョン建築II』鹿島出版会、2013年
- Monumental: Création architecturale et monuments historiques, Éditions du patrimoine, Semestriel 1, 2013.

2015 年度支部共通事業**日本建築学会設計競技応募要項****課題「もう一つのまち・もう一つの建築」**

〈主催〉日本建築学会

〈後援予定〉日本建築士会連合会、日本建設業連合会

日本建築士事務所協会連合会、日本建築家協会、

〈主旨〉2020年、東京オリンピック開催が予定されている。

これに伴い、首都圏では新国立競技場に代表される大規模な建築群が計画され、再び資本の集中が始まろうとしている。一方、成熟社会、少子高齢化を迎えた現在、地方の人口減少による過疎化、ローカル線の廃線、ロードサイドショップ、大型商業施設の郊外化に伴う駅前商業地や中心市街地、中心商店街の空洞化によりまちの活気が失われている。総務省の統計によると全国の空き家数は820万戸、空き家率は13.5%で昨年度より0.4ポイント上昇しており今後、益々、上昇傾向にあると予測されている。

現在から50年程前に遡って見よう。1964年の東京オリンピックでは、戦後復興から我が国の高度経済成長期に重なり、新幹線や首都高速道路の建設など交通インフラと関連する施設建設が未曾有の速さで整備され、これを機に首都圏へ人口の一極集中が始まった。一方、経済成長に伴い地方都市では経済優先の都市開発が行われ、鉄道駅を中心とした均質化した商業地域、中心市街地、行政地域を核としたまちの骨格が形づくられ、住宅地は宅地開発により都市周辺にスプロールしていった。経済的合理性、効率性や利便性を求めたこの半世紀の歩みのなかで私たちは失ったものも多い。地方のまちの中心市街地は海や山、川など自然の豊かな環境が身近にあり、また歴史が培った文化やコンパクトな交通インフラも備わっている。地方都市には小さきゆえの良さがある。

「幸福度」という指標がある。これは主観的な「幸福度」の程度のことであり、具体的には経済社会状況／健康／ライフスタイル、家族や地域、自然とのつながりの関係性／が挙げられる。「幸福度」の国際比較を見ると、我が国は中位で先進国の中では最下位辺りの位置付けとなっている。まちの在り方や建築を通して、豊かな生活とはなにかを改めて問うてみたい。現在のまちを再開発するのではなく、50年前に遡ってリセットして、現在あるべき「もう一つのまち・もう一つの建築」を構想してください。

審査委員長石田敏明

〈応募規程〉

A. 課題

「もう一つのまち・もう一つの建築」

B. 条件

実在の場所（計画対象）を設定してください。

C. 要求図面および提出資料

- ①提出資料：提出資料の用紙はA1サイズ2枚（594×841mm）とします。なお、サイズ厳守、変形不可、2枚つなぎ合わせることは不可です。提出資料の裏面には、それぞれの番号を付けてください（No.1, No.2と明記）。仕上げは自由としますが、写真等を貼り付ける場合は剥落しないように注意してください。なお、パネル、ボード類は使用しないでください。模型、ビデオ等は受け付けません。
- ②要求図面等：要求図面は、配置図、平面図、断面図、立面図、透視図です（縮尺明記のこと）。提出資料には要求図面のほか、計画対象の現状や計画条件を図や写真等を用いて解説したものと、設計主旨（600字以内の文章にまとめ、10ポイント以上の文字で提出資料中に記入）、模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。
- ③提出資料とは別に、上記②の設計趣旨をA4判用紙1枚（縦使い）に印刷して提出してください。
- ④上記のほかにデータ類として、(1)2枚の提出資料の内容をそれぞれ350dpiのPDFファイルとしたもの、(2)設計主旨の要約（200字以内）のテキストデータ、(3)顔写真（横4cm×縦3cm以内：顔が写っているものに限る）のデータ、を納めたDVDまたはCDを1部提出してください。

※提出資料及びデータ類は、全て無記名としてください。

なお、④は審査対象の資料としては使用せず、入選後の作品集の原稿の一部として使用いたします。

D. その他注意事項

- ①図面および設計主旨の概要文用紙には、応募者の氏名・所属などがわかるようなものを記入してはいけません。
- ②応募作品は、ほかの設計競技等と二重応募になる作品、あるいはすでに発表された作品は応募できません。
- ③応募作品は、本人の作品でオリジナルな作品であることを要求します。

E. 応募資格

本会個人会員とします。

F. 提出方法

- ①所定の応募申込書(本会ホームページから入手して下さい)。

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2015/compe.pdf>

主旨概要文用紙（A4サイズ）を入れた封筒と図面と提出資料を一括して提出してください。なお、受領通知が必要な方は、受領通知返信ハガキ（官製ハガキに代表者の住所・氏名記入のこと）を同封してください。

- ②応募作品は1案ごとに別々に提出してください。

- ③締切期日：2015年6月26日（金）必着（17:00まで）